

一般社団法人 倫理研究所

令和4年度

年次報告



2021-2022
ANNUAL REPORT

一般社団法人倫理研究所 令和4年度 年次報告

ANNUAL REPORT

令和3年9月1日～令和4年8月31日

CONTENTS

- 4 活動トピックス
 - …「奇跡の一本松の根」展を開催
- 6 …「地球倫理推進賞」の贈呈
- 7 …丸山奨学金による支援
 - …東日本大震災教育支援基金
- 8 …丸山敏雄生誕130年記念ブックフェア
- 9 …青年フォーラム 2022
- 10 …しきなみ子供短歌コンクール
- 11 …他団体への寄付・協賛
 - …ラジオ番組の提供
- 12 倫理の研究と成果の発信
- 14 家庭倫理の普及
- 16 企業倫理の普及
- 18 海外の普及
- 19 書道や短歌などの文化活動
- 20 倫理を学ぶ多彩なセミナー
- 22 出版物の刊行
- 24 組織概要
- 25 …家庭倫理の会・倫理法人会拠点数
- 26 …主要施設
- 27 …沿革

令和4年度、倫理運動は創始76周年を迎えました。引き続き「地球倫理の推進」「日本創生」の二大理念をスローガンに掲げ、誇りある日本文化の自覚と発信、「共尊共生」の理念の実現をめざして「倫理共同体」の同士の輪を広げるべく諸事業を展開しました。一昨年度から続く感染症は少しずつ収束の兆しが見え始め、社会経済活動との両立が進められています。ま

た、家庭倫理の会・倫理法人会の諸活動も徐々に平常を取り戻しており、家庭や職場の絆をより深めるべく諸事業を推し進めました。研究部門では、専門研究者を中心とした研究体制のもとで純粋倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念し、刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通して成果を国内・海外へ発信しました。また、丸山敏雄

生誕130年を記念した研究発表を行いました。普及部門の生涯局では、「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、純粋倫理を基盤に家庭の愛和を実践する人々の輪を広げて、地域の教育力向上に貢献すべく、活動の充実を図りました。全国の会活動を各会の実状に合わせて支援するため、新たに運営サポーター制度を導入し、地域の抱え

る課題や会の運営状況を調査・分析するとともに、役職者が意欲的に活動できる支援に力を注ぎました。文化活動は、書道・短歌によって家族をつなぐ芸術活動を展開。また「第17回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」は、しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞の表彰のみに絞り、受賞者3名とその家族や関係者37名で開催しました。本

創始者生誕130年の節目を迎え、 着実な活動を展開した令和4年度。

業は伝統文化の継承、子供達の国語力、感受性の向上にも貢献する公益事業として、教育関係者からも高く評価されています。

普及部門の法人局では、純粋倫理を正しく学んで実践に励み、「倫理共同体」の同士の輪を広げるため、「ゆるぎない7万社」を実現すべく、普及計画を力強く推進しました。また、倫理経営による「経営力」を高める会員の増大を着実に推し進める一方、組織強化を図るため、委員会制度の

改変を実施し、より現実的に則した組織への移行を果たしました。さらに、令和3年度は中止を余儀なくされた「方面会」を全方面で開催し、年度目標達成への士気

を高めました。

教育部門の富士高原研修所は、秀逸な建築空間を舞台に、受講者が富士山麓の豊かな自然に触れ合い、心を深く見つめて自己の課題を確認し、倫理実践力を向上させる各種セミナーを開催しました。疫禍を鑑みながら、政府の対策ガイドラインに基づき一部計画を変更しつつも、開催組数58組、受講者総数は3233名のぼり、緩やかながら回復の兆しが見られました。

出版部門では、創始者の生涯に大きな影響を与えた6人との関わりを紹介した『至心に生きる―丸山敏雄をめぐる人たち』と、子育てにおける親の心構えを説

いた『わくわく子育て親子』を刊行。定期刊行物も計画通り発行し、「標語カレンダー」と「実践手帳」も好評を博しました。

広報活動では、「第25回地球倫理推進賞贈呈式」を令和4年3月29日、都市センターホテル（東京都千代田区）で実施。「りんりん基金」の奨学サポートは、最後の1名の支給が完了し、平成25年度認定の第1期から4期生48名すべての給付期間が満了しました。また、インターネットによる

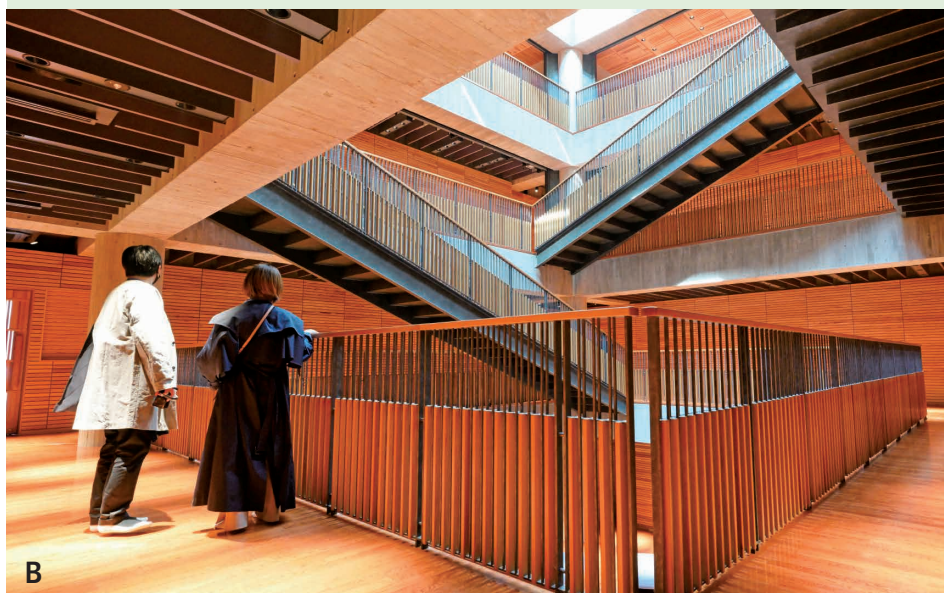
発信力の向上に努めました。令和2年12月に竣工した新施設「紀尾井清堂」では、会員に限定せず一般に公開する初の試みとして「奇跡の一本松の根」展を

令和4年3月11日から令和5年3月9日まで約1年間のロングランで開催中です。

国際部門では、オンラインを活用した情報の提供体制を整備し、リモートでの活動支援を主軸に関係各国との連携を強化。人づくりを中心に海外組織の拡充を図りました。またアジア諸国の留学生5名のほか、中国・内蒙古大学学生に「丸山奨学金」を支給しました。なお「地球倫理の森」創成事業は疫禍により、沙漠緑化隊の派遣を中止しています。

本年次報告では、令和4年度の事業について、写真や図表を多用して包括的にご紹介します。





A：校外学習の一環で見学する近隣の中学生

B：3階から5階までは回廊である「紀尾井清堂」。建物内を興味深く見学する者が後を絶たない

C：巨大な根の基幹部分以外は切断して保管され、清堂1階へ運び込まれた後に慎重に復元された

D：ホール機能を有する2階では「奇跡の一本松」を追って(NHK、2013年放送)が上映された



令和4年度 活動トピックス

社会教育団体として、
さまざまな生涯学習活動を
展開しました。

「奇跡の一本松の根」

展を開催

① 「紀尾井清堂」で 初の対外事業

倫理運動を対外的に、また多面的に発信することを目的に昨年度竣工した「紀尾井清堂」。令和4年度はその初披露を兼ねた事業として「奇跡の一本松の根」展を開催しました（後援／紀尾井町町会・全国民間放送ラジオ局37社）。

平成23年3月11日に発生し、死者・行方不明者を合わせて2万5949名が犠牲となる未曾有の被害をもたらした東日本大震災。大津波により岩手県陸前高田市の7万本の松は1本を残して全て流出しました。残された松は「奇跡の一本松」と呼ばれ、被災者のみならず多くの人々に勇気を与えましたが、翌年、塩害により枯死していたことが判明。伐採・解体した後、復興のモニュメントとして生まれ変わり、現在は、震災前と同じ場所に復元されています。

年前の震災の辛さ、悲しさを伝えるとともに、生きていくことの大切さを『根』が語りかけているようで、心が震えました。」
（埼玉県・60代 男性）

「想像していたよりも、大きく力強さを感じる松の根でした。根がとても大きく、これだけ大きい根だったか

一本松が立つ高田松原津波復興記念公園内の国営追悼・祈念施設を設計した建築家の内藤廣氏（紀尾井清堂の設計者）は陸前高田市長から「奇跡の一本松の根」が現存していることを知らされます。大津波に耐え抜いた根が放つ圧倒的な存在感と生命力に感銘を受けた氏は「多くの方に観ていただくことで、遠くなりつつある被災地に思いを馳せる動機づけにできれば」と陸前高田市と倫理研究所に提案、共催として「奇跡の一本松の根」展を開催することとなりました。

東日本大震災から11年目となる令和4年3月11日に初日を迎え、毎週火・木・土曜日（祝祭日を除く）に開催。8月31日まで都内を中心に全国各地から9039名が来場するなど、好評を博しました。参加者からは多くの感想が寄せられています。

「『根』と対峙したとき、11

らこそ最後まで流されることなく立ち続けたのだと思うと感動するものがありました。」
（茨城県・20代 女性）

同展示会は令和5年3月9日まで、約1年間にわたるロングランで開催します。

海外および国内における教育支援

令和4年度 丸山奨学生(5名)

国籍	研究機関	研究テーマ
中国	大阪大学大学院	ほのめかし表現の日中対照研究
中国	東京大学	日本現代社会における性意識の変遷
中国	神戸大学	自治体による低炭素規制と地方企業の株価
中国	筑波大学	日本の前近代における家訓と家庭教育
イスラエル	京都大学大学院	東南アジア開発援助をめぐる日中の競合

03

丸山奨学金による支援

令和4年度も「丸山奨学金」200万円を中国内蒙古大学に支給しました。併せて2カ国5名のアジア諸国の留学生(丸山奨学生)にも奨学金総額505万円を支給し、勉学を支援しました。



富士高原研修所で生活倫理セミナーを受講した、中国からの留学生、徐田奇さん(左)、姚遠さん(右)

丸山奨学生は将来日本との学術・文化などの友好交流の架け橋として期待される人材であり、各自の専門研究テーマを探究するとともに、「地球倫理」を富士高原研修所で体験学習し、日本の精神文化の理解を深めています。

04

東日本大震災教育支援基金(りんりん基金)

「東日本大震災教育支援基金」は、東日本大震災により両親や家族を失った遺児や若者たちの勉学を援助し、教育環境の整備に役立てることを目的として、平成23年4月に開設されました。基金は以下2つの分野への支援として活用され、開設以来の支援総額は5億5410万円に上ります。(令和4年8月31日現在)。

「タグボート支援」

被災地における子供の教育支援活動を行なうボランティア団体を対象とした支援です。平成23年11月より支援を開始し、以来、23団体に計1億3963万円を支給しました。平成28年3月11日をもって寄付の受付を終了し、平成29年度をもって支援を完了しています。

02

「地球倫理推進賞」の贈呈

令和4年3月29日(火)「第25回地球倫理推進賞」贈呈式を都内ホテルにて開催しました(後援/文部科学省・産経新聞社・全国民間放送ラジオ局37社)。

応募総数は35件(国際活動部門14件、国内活動部門21件)の中から、国際活動部門は「公益社団法人シャントイ国際ボランティア会」(若林恭英会長)、国内活動部門は「フードバンクしばた」(佐藤哲也代表)を表彰しました。

国際活動部門受賞の「シャントイ国際ボランティア会」は「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和な社会の実現をめざし、アジア7カ国で本を通じた教育文化支援活動を40年にわたり継続してきました。延べ1601万人が利用する図書館事



Photo: Junji Naito

【国際活動部門】シャントイ国際ボランティア会



【国内活動部門】フードバンクしばた

業、424棟の学校建設、76回におよぶ緊急人道支援、途上国産原料・製品の適正価格での購入などの事業を行なっています。

国内活動部門受賞の「フードバンクしばた」は主に母子家庭で貧困世帯への食糧援助を柱に、教育と福祉の包括的な支援を年間300世帯に行なっています。進学を断念する子供のサポート、学用品・生活用品のリサイクル事業、訪問型病児保育、無料塾の開催など12の事業を展開し、本に必要な支援を「個別」「直接」「継続的」に届ける活動に尽力してきました。

贈呈式には253名が出席。表彰後の活動報告では、両団体を取り組みと成果を写真や映像を駆使して発表し、出席者に深い感銘を与えました。

「奨学サポート」

被災による経済悪化によって大学進学が困難となった高校3年生を対象に、①入学支度金 ②授業料 ③生活費を給付。返済義務のない奨学金制度として、第1期生(平成25年度認定)から第4期生(平成28年度認定)まで計48名の大学進学・大学生活をサポートしています。これまでの奨学金総額は4億1447万円、そのうち本年度は135万円を給付しました。また、第1期から第4期生のうち、6年制大学在学中であった最後の1名の給付も令和4年3月に満了し、本事業はすべて完了しました。

なお、役割を終えた本基金の残高8793万円は、引き続き起こるであろう災害時に備えるべく「危機対応積立基金」として残し、然るべき事態に備えるための原資にすることとしました。



東日本大震災
教育支援基金



12歳～28歳の青年が弁士として登壇。夢や希望を堂々と述べた



ブックフェア対象書籍14冊

生誕130年を記念したブックフェア

05 丸山敏雄生誕130年 記念ブックフェアを実施

令和4年度は、倫理運動の創始者・丸山敏雄の生誕130年にあたりました。そこで、「丸山敏雄生誕130年記念ブックフェア」を実施しました。

対象となる書籍は、創始者の著書12冊（上記写真『歓喜の人生』『清き耳』『無痛安産の書』等）ならびに関連の2冊（『丸山敏雄伝』『純情に生きる』）の計14冊。令和4年1月から8月末日にかけて、2つの企画を実施しました。

①1月～8月、対象書籍に同封した応募ハガキを送付すると、生誕130年に因み、抽選で総計130名様に創始者ゆかりの品をプレゼント（A賞／懐中時計1名・B賞／生誕地豊前産のお米や果実等20名、C賞／夫婦箸50名。他にWチャンス賞59名）。応募総数は452件でした。9月に厳正なる抽選を行ない、10月末の発送をもって発表に代えました。

②5月～8月、対象書籍の中から1冊を選んで読み、気づきや学び、実践を原稿に記す「読後感想文」「読

後実践手記」を募集しました。家庭倫理の会員、倫理法人会会員、未会員を含め、17歳の高校生から90歳の高齢者まで、幅広い年齢層の方から99の作品が寄せられました。9月に厳正なる選考を行ない、優秀賞3名、佳作10名を決定しました。

受賞者等の詳細は『新世』12月号および『倫研新報』11月号、倫理研究所ホームページに掲載しました。受賞された皆様には、10月末に表彰状ならびに副賞を贈呈しました。なお、優秀賞の3作品は、令和5年『新世』1月号と2月号に掲載します。

①②ともに多数のご応募をいただき、感謝申し上げます。



の健全育成をめざして

06 青年フォーラム

青年フォーラムは、企画から演出・構成・運営など、本番を迎えるまでのすべてのプロセスを青年たちの手によって創り上げていく体験学習型イベントです。

昭和25年に開催された「青年弁論大会」から、時代と共に形を変えながら歴史を重ね、今年で通算50回目を迎えました。現在では文部科学省から後援を受けて、青年育成事業の柱になっています。

疫禍の影響で昨年度は東京のみの開催でしたが、今年度は東京都・兵

庫県・熊本県・沖縄県の4会場で開催することができました。

「温故知新／過去に学び、未来をつくる」を共通テーマとし、さらにそれぞれの会場でサブ・テーマを設定しました。

青年たちが創意工夫を凝らした企画の内容は、弁論、ダンス、唄、演奏、演劇など、多彩なパフォーマンスを披露。いずれの会場も感動と熱気に包まれる中、盛大な拍手が湧き起こりました。

全国4会場の総計は、青年スタッフ126名、弁論発表者24名、来場者数は1841名でした。



実行委員会メンバーによる創作ダンス（東京都）

会場	来場者数
ニッショーホール（東京都）	398
神戸国際会議場（兵庫県）	505
熊本城ホール（熊本県）	626
コザミュージックタウン（沖縄県）	312
合計	1,841

伝統文化教育への取り組み



左から「しきなみ子供短歌賞」「文部科学大臣賞」に輝いた高木さん、梅原さん、星野さん

⑦ しきなみ子供短歌コンクール

「第17回しきなみ子供短歌コンクール（後援／文部科学省、全国民間放送ラジオ局37社）」には、全国の小学生6万54名（1144校）より短歌が寄せられ、3次にわたる厳正なる選考の結果、最優秀にあたる「しきなみ子供短歌賞（小学校低学年・中学年・高学年の部）」の3名、特選24名、入選323名、佳作551名が選出されました。

令和4年2月20日、倫理研究所（東京都千代田区）で行なわれた表彰式には「しきなみ子供短歌賞」「文部科学大臣賞」受賞者と受賞者の家族を含む40名が出席しました。

「しきなみ子供短歌賞」の受賞者には丸山敏秋理事長より表彰状が授与された後、文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課 課長補佐・田中勉氏より「文部科学大臣賞」が授与されました。



表彰式会場の様子。終始和やかな雰囲気のなか行なわれた

しきなみ子供短歌賞受賞作品

低学年の部／高木奏太／東京都・1年
カードをビッだいぼうけんのはじまり
だひとりでんしゃでじいじのいえへ

中学年の部／星野珠希／埼玉県・3年
ほしくないピーマンのたねもらった
のめが出てからは話しかけてる

高学年の部／梅原美心都／千葉県・5年
夏の夜昔の話聞いてねと祖母の涙にふ
るさを知る

倫理普及の後方支援として

⑧ 他団体への寄付・協賛

令和4年1月13日、丸山敏秋理事長が伊勢神宮を訪れ、式年遷宮御造営資金として100万円を寄付しました。

約1300年前から続けられている伊勢神宮最大の神事である式年遷宮。20年に一度、古代からの形式を継承しながら社殿を造営することともに、御装束神宝も新しく調製して大御神に捧げられます。



神宮禰宜の森真吾氏より感謝状を拝受する丸山理事長

遷宮全体にかかる資金は約550億円にもなります。伊勢神宮への寄付は平成8年の丸山理事長の理事長就任以来、倫理研究所として毎年行なってきました。

そのほか、創始者の生誕地である福岡県豊前市に「豊前市芸術文化振興事業協賛金」の寄付・協賛を行ないました。また、5月20日には、がん研究の領域において特に優れた業績をあげた学者・研究者に対する学術賞の贈呈や研究奨励助成などを行



佐藤進参与へ寄付金を手渡す大木理事

⑨ ラジオ番組の提供

次の世代に語り継ぎたい日本の「音」を伝えるラジオ番組「録音風物誌」の提供を令和4年度も継続しました。

同番組は全国AMラジオ34局が持ち回りで制作している、放送開始から70年を迎える長寿番組です。倫理研究所は放送文化の向上に寄与するとともに、提供CMなどで認知度を高める一助とすべく、平成13年1月より番組提供を続けています。

また、同番組提供を機に、AMラジオ37局から「地球倫理推進賞」や「しきなみ子供短歌コンクール」などに毎年後援をいただいております。

録音風物誌
rokuon fubutushi

〔放送ネット局〕北海道放送、青森放送、IBC岩手放送、東北放送、秋田放送、山形放送、ラジオ福島、新潟放送、信越放送、文化放送、山梨放送、静岡放送、北日本放送、北陸放送、福井放送、東海ラジオ放送、京都放送、和歌山放送、ラジオ関西、山陰放送、中国放送、山口放送、四国放送、西日本放送、南海放送、高知放送、RKB毎日放送、長崎放送、熊本放送、大分放送、宮崎放送、南日本放送、ラジオ沖縄、琉球放送

倫理の研究と成果の発信



令和4年度、研究センターは、倫理運動に資する研究事業を推進しました。専門研究者を中心とした研究体制のもとで、純粋倫理、日本文化、倫理文化等の研究に専念し、刊行物や学会・学術誌における研究発表等を通して、国内・海外へ発信しました。また、普及・教育・出版等の各部門の事業に資する知的資産の拡充に努めました。なお今年度は、丸山敏雄生誕130年を記念した研究発表を行いました。

研究の方向と重点

純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究を積極的に推進し、「倫理文化学」の構築をめざす研究を行ないました。

倫理文化に関する専門的研究

研究者	研究内容
内田智士	恩送り行動等の利他的行動が社会に定着するプロセスを、数学とシミュレーションの手法を用いて分析

高橋 徹	明治維新直前から近未来までを80年周期の観点から見直し、近現代史と対照させて検証
寛ボルテール	無形文化遺産としての日本食文化および現代食文化の諸課題への取り組み
松本亜紀	現代における「無痛安産」の意義とその普及方法についての考察、女性性の本質に関する研究
平良 直	共産主義、自由主義等、世俗的事象の「宗教」性に関する研究、および民俗伝統における農具の呪具的使用の意味に関する研究
水野雄司	明治に展開した「国民道德」という概念を、井上哲次郎の思想を中心に考察
丸山貴彦	身体を方法とする学びについて、教育実践事例を踏まえつつ、主に「発達」の視点から考察

倫理意識調査の実施

昨年度に引き続き、日本人の倫理意識定点調査を令和4年3月に行ないました。また以下の通り、倫理意識についての企画調査を行ないました。

◇調査企画／倫理文化研究センター研究フェロー海野裕（マーケティングプランナー）
◇調査目的／直近2年の倫理意識定点調査で、若年層（特に女子大学生）に倫理意識の高まりが見られる。各世代の中で、なぜ女子大学生の倫理意識が顕著に高まっているのか、その要因と背景を調査
◇調査対象／女子大学生（20名程度）
◇調査期間／令和4年8月12日～令和5年度も引き続き調査

各種研究会の開催

純粋倫理の研究に関する研究会（2回）、倫理文化の専門的研究に関する研究会（3回）を開催しました。

研究成果の発信

『倫理研究所紀要』（年刊誌）
純粋倫理の研究、倫理文化に関する専門的研究など、倫理に関する多様な研究成果を発信しました。

通 巻	第31号
発行部数	1280部

掲載論文

執筆者	テーマ
佐伯啓思	《論説》倫理と無常―道元を手掛かりに
與那覇潤	《論説》危機のなかの古典（続）―ターンプル『食うものをくれ』

『倫理』（月刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。

通 巻	825号～836号
発行部数	6万9000部

教養講座

今年度は、教養講座の一部を丸山敏雄生誕130年記念研究発表とし、録画映像をYouTube上で限定公開しました。

発表者	テーマ
高橋 徹	《丸山敏雄生誕130年記念研究発表》今こそ共振したい、丸山敏雄の言葉―なぜわれわれは大切なことを忘れるのだろうか？
内田智士	《丸山敏雄生誕130年記念研究発表》科学の視点から倫理を見る
松本亜紀	《丸山敏雄生誕130年記念研究発表》純粋倫理の原点に立ち返る―無痛安産の観点から
海野 裕	次世代と倫理―新たな倫理の芽生えを検証する
水野雄司	迷惑ノススメ

研究資料の蒐集と提供

実践体験事例1110篇、研究論文211篇を分類整理・保存し、併せて教育・普及・出版の各部門の要望に応じて、情報提供を行ないました。

倫理資料館の運営・管理

純粋倫理の研究ならびに倫理文化に関する専門的研究に資する図書資料の充実を図りました。今年度は、

新たに計1265冊を図書資料として登録しました。また、創始者の遺品蒐集・保存作業、倫理運動史料の蒐集・整理を行ないました。

研究機関および研究者との交流

「日本家庭教育学会」「人体科学会」「日本国史学会」など、諸学会の活動に協賛し、専門家との交流を深めました。「日本家庭教育学会」の第37回大会では委員として企画実施にあたりました。併せて、道徳教育および家庭教育を推進する関係団体、ならびにその研究者との積極的な交流を図り、必要に応じてその活動を支援、「女性性の本質」に関する研究に対して研究助成を行ないました。また、国内外の国際会議・研究学会において研究発表を行ないました。

家庭倫理の普及

家庭倫理の会は「根を広げ、花を咲かせる」をモットーに、純粋倫理を基盤に家庭の愛を実践する人々の輪を広げて、地域の教育力向上に貢献すべく、活動の充実を図りました。

家庭倫理の会は子育て活動を通して、子育てに関する自信と安心を高める活動を展開。シニア活動は、晩年の生きがいを見出す人々の相互交流につながる多彩な活動を通して、次世代の幸せを念じ、いきいきした人生を歩むシニア会員の輪を広げる活動に注力しました。また、青年活動においても、各地域で社会に貢献できる青年の育成に努めるなど、世代間のつながりを強く結ぶべく諸活動を実施しました。

おはよう倫理塾

純粋倫理の学習と実践を自発的に求める人々を対象に、早朝の自己鍛錬、心境向上の場として開催しました。また、感染防止の観点から様々な制限を繰り返し受けながらも、できることを工夫して活動を継続しました。

開催会場	534カ所
参加者数	71万2467名

子育てセミナー

各家庭倫理の会において①妊産婦②乳幼児期の子を持つ親③児童期の子を持つ親④思春期の子を持つ親を対象に開催し、子育てに悩む若い父母層への純粋倫理の普及に努めました。また、リモート形式による勉強会を行ないつつも、年度後半には徐々に活動を再開する会が増えました。

開催回数	1242回
参加者数	7650名

子供倫理塾

「学び・遊び・競」をテーマに、小学生を対象とした「子供倫理塾」を開催しました。純粋倫理についてやさしく解説するとともに「5アクト」の実践を奨励して、基本的な生活習慣を学びました。

開催回数	340回
参加者数	1980名



シニアスピーチ

高齢層の会員および未会員を対象に、シニア世代が豊富な人生経験と、純粋倫理の学びと実践により培った信念を披露し、各世代を倫理でつなぐことをめざして家庭倫理の会単位または県単位で開催しました。

開催回数	10回
参加者数	1970名



子育て発表会

都道府県単位で開催し、1年間の活動の成果を語り合い、感動を共有しました。

開催回数	13回
参加者数	1020名

純粋倫理基礎講座

全国の家庭倫理の会会員を対象に開催しました。純粋倫理の基本を『純粋倫理入門』（テキスト本）に基づいて学習し、純粋倫理の理解を深めるとともに実践意欲を高めました。

青年活動

青年倫理セミナーin東北

東日本大震災から11年が経過した東北の地で「生きるとは何か」「生かされて生きる命の役割」をテーマに開催。4月29日～5月1日にかけて全国から66名の青年が参加しました。

開催回数	1668回
参加者数	2万4455名



青年フォーラム

通算50回目となる全国的な行事「青年フォーラム2022」を4カ所（東京都・兵庫県・熊本県・沖縄県）で開催しました。弁論発表では、4会場合わせて24名の弁士が登場し、将来の夢や希望、自身の課題や悩みに向き合いながら前に進む決意などを発表。弁士に熱い声援が送られました。第二部では、趣向を凝らしたパフォーマンスを披露。場内は感動と熱気に包まれる中、盛大な拍手が送られました。（関連記事9頁）



企業倫理の普及

倫理法人会は大目標である会員企業数10万社にふさわしい組織体制の構築をめざし、「地球倫理の推進」「日本創生」を旗印に、倫理経営の堅実な普及・教育に努めました。

位の倫理法人会で開催しました。参加者は朝型の生活習慣を体得するとともに、各界で活躍する講師の体験談などを聴講し、企業を健全な繁栄へと導く倫理経営についての学びを深めました。また、会員同士の交流や情報交換も盛んに行なわれました。

開催回数	3万4423回
参加者数	96万298名

令和4年度 倫理経営講演会

「経営力を磨く―求められる経営者の資質―」

主催 福島県 安積野倫理法人会



全国で開催し、好評を博した「倫理経営講演会」。倫理経営を各地域にアピールした

倫理経営講演会

「経営力を磨く―求められる経営者の資質―」をテーマに、令和4年1月～5月にかけて全国の倫理法人会で開催しました。事業体験報告や朝礼実演を交え、倫理経営の重要性や、職場に鋭気と活力をもたらす朝礼の必要性をアピールし、多くの経営者の賛同を得ました。

開催会場	630カ所
参加者数	4万5809名

経営者モーニングセミナー

毎週1回、早朝に全国の市・区単



職場朝礼の推進

よりよい社風づくりと社員の資質向上をめざして、活力溢れる職場朝礼を推進しました。朝礼用のテキストである『職場の教養』を毎月200万部発行したほか、朝礼研修に力を注ぎ、朝礼実施企業の増大を図りました。

朝礼研修実施回数	116回
参加者数	1709名



後継者倫理塾

企業の未来を担う後継者の育成を目的に開催しました。純粋倫理の学習と実践を通して、よりよい生活



経営者の集い

業態により「経営者モーニングセミナー」に参加できない会員や、新規入会者、入会を希望する経営者を対象に、純粋倫理の学びを深める勉強会を各倫理法人会で開催しました。

開催回数	1620回
参加者数	2万4643名



講師・幹部の養成

純粋倫理の深い理解と実践力の強化・向上のために、役職者およびその候補者を対象に、継続して「倫理経営基礎講座」を各会で実施しました。また、「経営者の集い」「倫理経営講演会」における事業体験報告者の話力向上のため「法人レクチャラー研修」を開催。さらに、新たな倫理経営インストラクター制度のもと、「倫理経営インストラクター研修」を富士高原研修所で開催するなど講師陣の指導力向上に努めました。

「倫理17000」

真に地域社会へ貢献し、倫理経営を顕著に推進している企業を認定するライセンス制度として平成16年からスタート。令和4年度は新たに14社を認定し30社の更新審査を実施、認定証を授与しました。

認定企業数	268社
-------	------





書道や短歌

などの文化活動



会場数	249支苑
月刊誌『秋津書道』年間出品者総数	2万9823名

秋津書道会

「自分の思いを書く」ことを通して純粋倫理の学びを深め、生活の浄化と倫理普及に取り組みました。また、世代をつなぎ家族の絆を深める「家族書道教室」の開催と、「初めての書道教室」などを開催して、会員に限らず広く参加者を募り活動の活発化に着実な成果を上げました。



会場数	335支苑
月刊誌『しきなみ』年間出詠者総数	6万3005名

しきなみ短歌会

短歌づくりを通して純粋倫理の学びを深め、生活の浄化と個性の発揚をめざすとともに、倫理普及に取り組みました。世代をつなぎ家族の絆を深める「家族短歌教室」や、地域の小中学校における「短歌教室」のボランティア、「初めての短歌教室」などの開催を通して、地域の教育力向上に貢献しました。



サンディエゴ倫理法人会の認可書掲げるギルプレス忍事務長と行動旗を披露するブライアン・ジャクソン 監査

海外の普及

台湾

35周年を迎えた「中華民国倫理研究学会」は自主運営を尊重しつつ、活動を支援しました。「アジア台湾企業倫理促進会」は、台湾における倫理経営模範企業の増強を図りました。また、定期的に日本の講師による「倫理経営講座」をウェブにて発信しました。

アメリカ

「南カリフォルニア倫理の会」の組織運営と普及力の向上をめざし、若年層への普及を促進するとともに、文化活動も引き続き支援しました。設立5周年を迎えた「カリフォルニア州倫理法人会」には、既存の2拠点に加えて、新たに設立した英語による単位倫理法人会の人材育成、組織の拡充を支援しました。また、地元メディアを活用し倫理経営の浸透に力を注ぐべく情報を発信しました。米国邦字新聞『ニューヨークBiz!』に毎週倫理経営に関する記事を掲載し、

「アジア（世界）のタグボート」を念頭に、国情に応じた倫理普及、および地球倫理の実践活動を推進し、海外倫理法人会の拡充を図りました。

ニューヨークを中心に全米の日系人に広く倫理経営を伝えました。

ブラジル

「ブラジル倫理の会」の組織運営と普及力の向上をめざすとともに、実践力強化のため、定期的にウェブにて情報交換を行ないました。「サンパウロ州倫理法人会」には、2拠点の倫理法人会の人材の発掘・育成および拡充を図るため、定期的に日本の講師による講話をウェブにて発信しました。

中国

「倫理研究所中国事務所」を拠点に、既に交流のある諸団体との関係を強化し、諸機関とタイアップしながら中国における人的交流を推進しました。1999年にスタートした「地球倫理の森」創成事業は、現地に依頼し、クブチ沙漠とウランブハ沙漠の2カ所の補植および育林を実施しました。緑化隊派遣は疫禍の影響もあり中止しています。



富士高原研修所では、倫理の学びを肌で感じながら、実践力を高めていく

倫理を学ぶ 多彩なセミナー

富士山麓の自然豊かな富士高原研修所において、家庭倫理の会の会員を対象とした「生活倫理セミナー」、倫理法人会の会員企業の経営者や社員を対象とした「企業倫理セミナー」、小学生と保護者を対象とした「小学生親子セミナー」など、各種セミナーを開催しました。令和4年度は3233名の受講生が純粋倫理の学びを深め、実践力の向上を図りました。

青少年育成に関するセミナー 小学生親子セミナー

小学生は「やればできる」、保護者は「こどもを信じる」をテーマに学習しました。林業体験（木こり体験）をはじめ、親子で学ぶボディワーク、キャンプファイヤーなど、豊かな自然環境の中で伸び伸びと過ごしながら自立心や協調性を養う実習を行いました。

（令和4年8月開催）

参加者数（6組）209名



中学生・高校生セミナー
中学生と高校生を対象に、富士宝永登山やボディワーク、創作発表会などを通して、日常実践の学びや恩恵の涵養を図り、協力しあう心などを体験的に学習しました。

（令和4年7月開催）

参加者数 50名（中学生36・高校生14）

家庭教育に関するセミナー 生活倫理セミナー

「わがいのちのふるさとに向き合う」をテーマに掲げ、課題に向き合う講座をはじめ、「まごころ実践5」や「短歌で交流」などこれまで以上の彩色を施した講座・実習を展開しました。

参加者数（8組）665名

企業教育に関するセミナー 経営者倫理セミナー

倫理実践力の向上をねらう「まごころ実践13」のセルフチェックで自己客観力を養うとともに、事業体験のケーススタディーから倫理経営を



学びました。また、倫理を体感する講座・実習で実践力を互いに切磋琢磨し、チームワークを形成して実践力を高めました。

参加者数（13組）993名

社員倫理セミナー

幹部社員・一般社員を対象に、社内における「活力朝礼」の積極的な活用法や、日常業務の改善・向上の原動力となる恩恵意識の深化を主軸に講座と実習を展開しました。

参加者数（6組）125名

新入社員倫理セミナー

社会人として第一歩を踏み出すために、参加者は挨拶や後始末などの日常生活での基本動作を体得しました。また、チームワーク向上を体感する講義・実習などを通して、参加者の活力を引き出すとともに学生気分の一掃を図りました。

参加者数（4組）134名

自主企画セミナー

都道府県倫理法人会、単位倫理法人会の役職者や、1社単位など、多方面の団体が単独で企画・実施できるセミナーを7組開催しました。いずれも事前に打ち合わせを行ない、

目的に応じたオリジナルのプログラムを実施しました。

参加者数（6組）279名



特別セミナー

丸山敏雄とその時代（含天和開催）

創立70周年および創始者生誕120年を記念して制作した映像全8章の鑑賞と解説をメインに、倫理運動の草創期とその時代背景を史実に基づき学習しました。

参加者数（5組）311名

愛和のみそぎセミナー

心身を浄化し、世の中に貢献す



その他のセミナー

生活倫理相談士セミナー

令和4年度は9組を予定していましたが、感染症拡大の影響により中止を余儀なくされました。そのため、生涯局が主催となり全国各地で開催しました。

る方途を探ることを目的に開催されたセミナーで、参加者はチャレンジコースを受講した方に限定して開催しました。実習を通して、自然を包容し感謝の心で「人・物・自然に接する意識」を見つめ直しました。

参加者数（3組）84名

出版物の刊行

定期刊行物

月刊誌

『新世』

生涯学習総合誌として、夫婦、親子、嫁姑、職場の人間関係を円滑にし、より良く生きるヒントとなる記事を掲載。各世代の読者層に純粋倫理をアピールしました。

丸山敏秋理事長の巻頭論文「新世言」、研究員によるエッセイ等のレギュラー記事のほか、毎号の「特集」では、社会の時流に添ったテーマを取り上げました。「実践の軌跡」では、主に子育て、夫婦関係の改善、倫理経営に即した手記を掲載し、実践のポイントを加えました。

通 巻	888号〜899号
発行部数	124万6600部

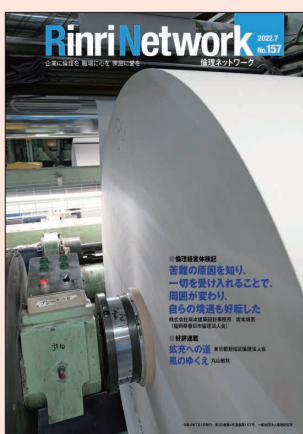


隔月刊誌

『倫理ネットワーク』

倫理法人会の情報誌として、倫理経営の要点や法人局研究員による連載を掲載し、会員各位が事業経営および倫理法人会活動において高い意識を維持できるよう、活力ある誌面構成に努めました。

通 巻	152号〜157号
発行部数	57万3000部



月刊紙

『倫研新報』

倫理研究所の主要事業・行事および、全国の家庭倫理の会、倫理法人会、海外普及活動などの報告記事を掲載。主な記事としては、「子育てセミナー」をはじめ家庭倫理の会設立、シニア発表会、青年活動など各地の家庭倫理の会の諸活動や、「倫理経営講演会」をはじめとした、倫理法人会の設立、開設式典、周年行事、年度目標達成に向けた取り組み

『倫理』

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化の専門的研究に関する諸論考を掲載しました。（関連記事13頁）

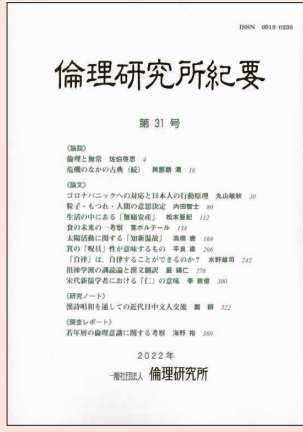
通 巻	825号〜836号
発行部数	6万9000部



『倫理研究所紀要』（年刊誌）

純粋倫理の基礎的・専門的研究、倫理文化に関する専門的研究など、多様な研究成果を発信しました。（関連記事13頁）

通 巻	第31号
発行部数	12800部



など、各地で行なわれた倫理法人会の諸活動を紹介。対外活動としては、「第17回しきなみ子供短歌コンクール表彰式」「第25回地球倫理推進賞贈呈式」などを紹介しました。

通 巻	771号〜782号
発行部数	141万6900部



書籍

『わくわく子育て親育ち』

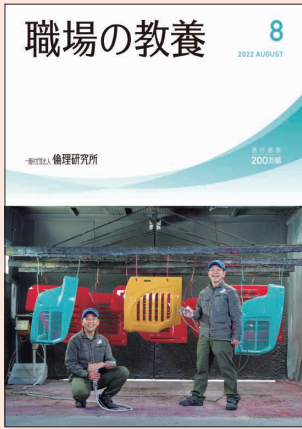
倫理研究所の研究員が、しつけ、夫婦の役割、自立に向けた親の心構え等のポイントをエピソードを交えながら解説した一冊です。



『職場の教養』

多岐にわたる話題・事例を題材として、職場人としての行動指針を提供しました。朝礼での活用を通じて自己を見つめ直し、職場や家庭で実行できるよう、分かりやすい文章表現に留意しました。

通 巻	549号〜560号
発行部数	2302万部



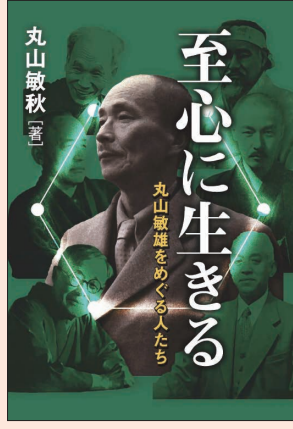
『秋津書道』

「秋津書道会」の創設者・丸山敏雄の書を学ぶ会員の相互研鑽の場として、初心者から上級者まで各々の書境向上に資する課題の提供に努めました。

通 巻	824号〜835号
発行部数	6万2950部

『至心に生きる』

丸山敏秋著
倫理運動の創始者・丸山敏雄が人生の真理に開眼し、「純粋倫理」と称して世に問うまでには、実に多くの人の出会いや交わりがありました。59年の生涯に大きな影響を与えた6人との関わりを紹介しました。

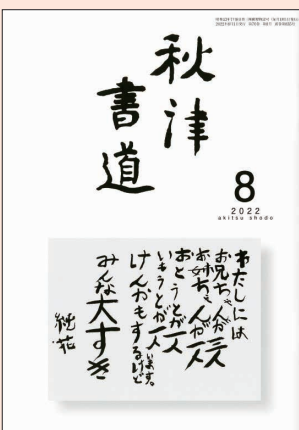


手帳・カレンダー

「2022 標語カレンダー」

今日の道しるべ
31日分の標語と3行のワンポイントアドバイスによって、純粋倫理の学びと日々の実践を明確に表しました。

販売部数 12万9676部



『しきなみ』

短歌を通して純粋倫理の体得をめざす会員の毎月の作品発表の場として、出詠者数日本一の短歌誌のみに恥じぬよう、内容の充実を図りました。

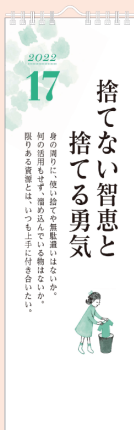
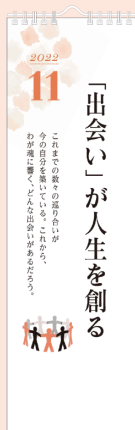
通 巻	906号〜917号
発行部数	8万3200部



「実践手帳2023」

「ブルー」と「ピンク」（表紙デザインは変更）を発売。週間予定の上部には、既刊書籍から選出した倫理の言葉を掲載しました。

販売部数 8135部



組織概要

名 称	一般社団法人倫理研究所
英文名称	RINRI Institute of Ethics
理事長	丸山敏秋
副理事長	前川朋廣
常任理事	鈴江 章／和田 毅
理 事	10名
監 事	2名
職 員	135名
所在地	〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5 TEL 03-3264-2251 FAX 03-3239-7431
創 立	1945年9月3日（倫理運動創始の日） 1948年10月30日に社団法人設立許可 2013年9月2日に一般社団法人へ移行
目 的	倫理の研究並びに実践普及により、生活の改善、道義の昂揚、文化の発展を図り、もって民族の繁栄と人類の平和に資する。
事 業	1. 社会教育事業 2. 研究事業 3. 出版・広報事業 4. 文化事業 5. 地球倫理推進事業
ホームページ	https://www.rinri-jpn.or.jp

会員の構成

会員は倫理研究所の趣旨に賛同し、倫理運動に参加する意志のある個人と法人によって構成されています。個人会員の組織を「家庭倫理の会」、法人会員の組織を「倫理法人会」と称します。ほかに文化芸術活動を行なう「秋津書道会」「しきなみ短歌会」があります。

会員数（公称/2022年9月1日現在）

家庭倫理の会	120,000 名
倫理法人会	70,000 社
秋津書道会	3,900 名
しきなみ短歌会	5,500 名

会費（月額）

個人	500 円
賛助	1,000 円
協賛	3,000 円
特別賛助	10,000 円
法人	10,000 円（1口）

秋津 会員	1,500 円
〃 （ジュニア会員）	800 円
しきなみ 会員	1,000 円
〃 （ジュニア会員）	500 円

創始者・丸山敏雄

1892（明治 25）年5月5日、福岡県豊前市生まれ。広島高等師範学校を卒業し、師範学校などの教諭として奉職。37 歳で広島文理科大学に入学。日本の精神文化、歴史を探究するとともに、書道や短歌など芸術分野でも研鑽を積む。1938（昭和 13）年に「秋津書道院」、1946（昭和 21）年に「しきなみ短歌会」を創設。さらに、長年にわたる宗教や道徳などの研究を土台に、自らの実践、体験を積み上げながら、「人間生活のすじみち」を研究し続け、それを純粋倫理と名づけた。その後、数多くの論文を発表しながら純粋倫理を体系づけることに力を注ぐ。

1945（昭和 20）年に倫理運動を興し、翌年、「新世文化研究所」（現・倫理研究所）を創立。自ら陣頭に立ち、一人でも多くの人に純粋倫理を伝えるべく、教育や講演、研究、執筆に身命を賭す。『万人幸福の栞』『無痛安産の書』『人類の朝光』など著書多数。

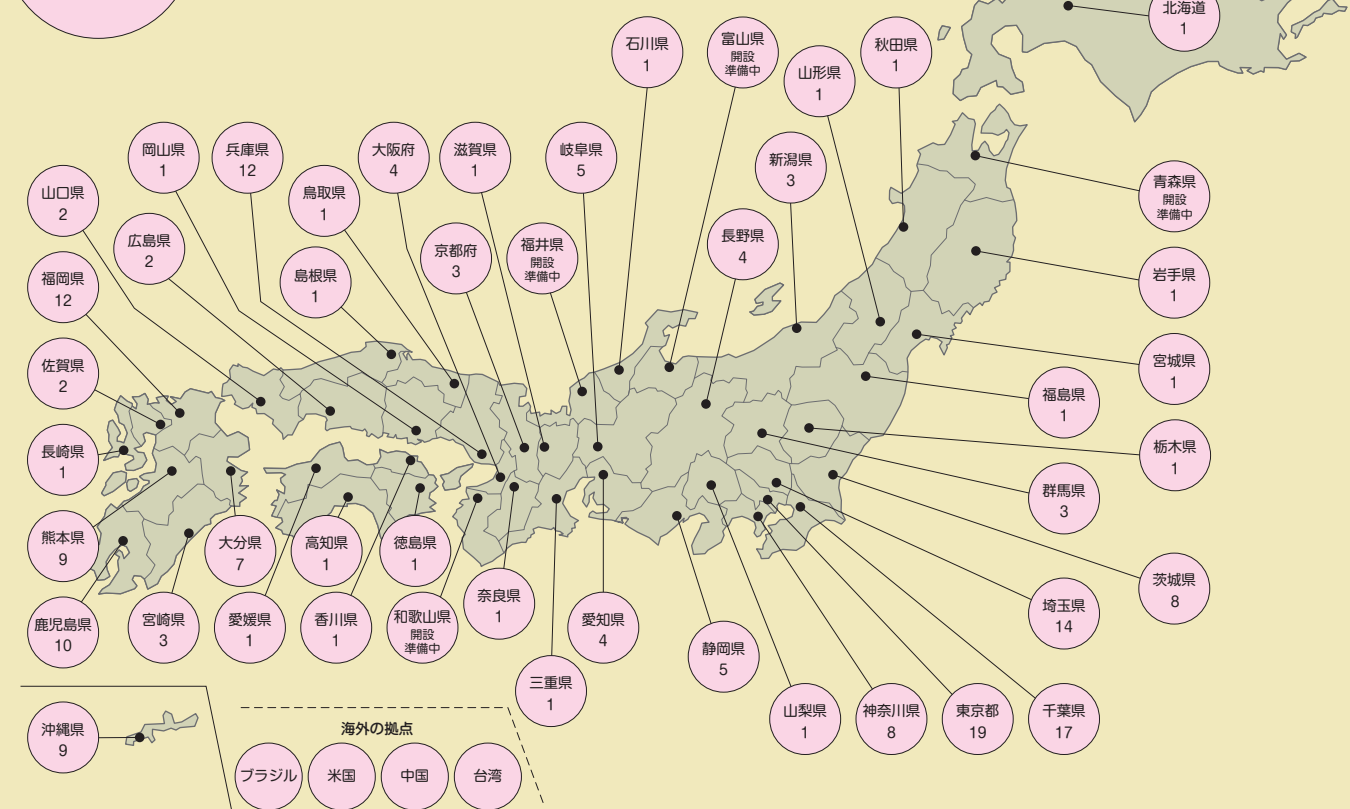
1951（昭和 26）年 12 月 14 日逝去。

丸山敏雄ウェブ <https://founder.rinri-jpn.or.jp>



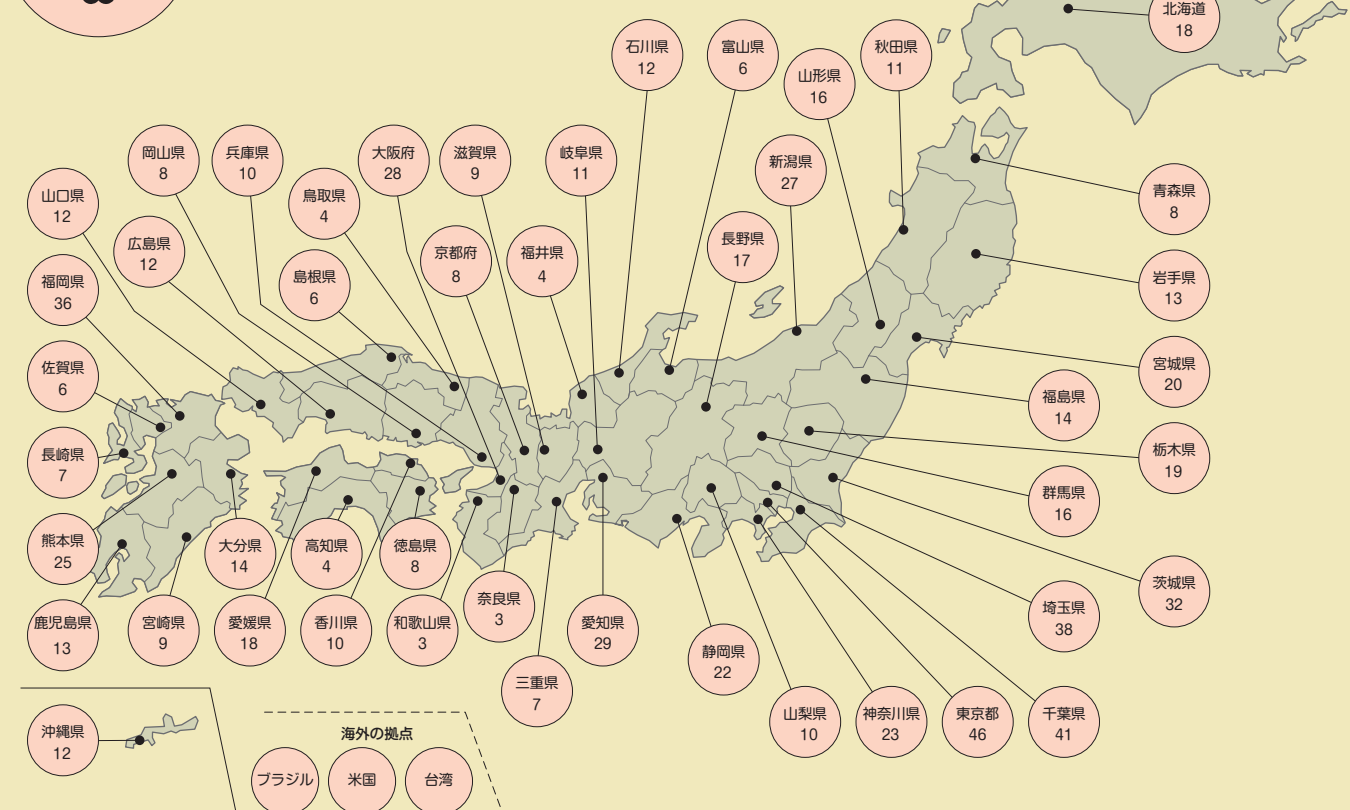
都道府県別拠点数（2022年9月1日現在）

日本全国に185の家庭倫理の会があります。



都道府県別拠点数（2022年9月1日現在）

日本全国に725の倫理法人会があります。



沿革

1945 年 丸山敏雄、論文「夫婦道」起稿。倫理運動を創始。
1946 年 新世文化研究所設立（初代所長、丸山敏雄）。
短歌誌『しきなみ』創刊。
1947 年 新世会設立。翌年、社団法人の許可を受ける。月刊
誌『文化と家庭』創刊（1949年『新世』へ改題）。
1948 年 「新世会」が社団法人の許可を受ける。
1949 年 「朝の集い」開始（上野、神田、銀座、市川）。
1951 年 新世会を倫理研究所と改称。丸山敏雄逝去。
丸山竹秋、理事長に就任。
1952 年 月刊誌『倫理』創刊。
1953 年 月刊誌『秋津書道』創刊。
1958 年 『10分間の教養集』創刊（1976年創刊の『職場の
教養』の前身）。
1966 年 富士高原研修所竣工。
1967 年 中日支所設立、支所体制がスタート。
1968 年 初の全国青年弁論大会開催。
1973 年 アメリカ・ロサンゼルスに拠点開設。
1980 年 千葉県に第1号の倫理法人会発足。
1984 年 天和会館（丸山敏雄生誕地記念館）落成。
1985 年 丸山竹秋が「地球倫理の推進」を提唱（創立40周年
記念大会にて）。
1986 年 中華民国（台湾・台中市）に拠点開設。
1987 年 第1回日中実践倫理学討論会開催。
1989 年 丸山竹秋、藍綬褒章受章、社会教育功労者表彰。
1990 年 倫理法人会1万社達成記念大会開催。
1991 年 年刊誌『倫理研究所紀要』創刊。
1995 年 丸山竹秋が地球倫理推進の運動方針「アジアのタグ
ボート」を発表（創立50周年記念大会にて）。
1996 年 丸山敏秋、理事長に就任。
1997 年 第1回地球倫理フォーラム（「まなびピア新潟」協賛）
開催。
1998 年 第1回地球倫理推進賞贈呈式開催。倫理資料館竣
工。

1999 年 創立55周年記念中国クブチ沙漠「地球倫理の森」創
成事業スタート。丸山竹秋逝去。
2000 年 ブラジル・サンパウロに拠点開設。
2001 年 新富士高原研修所グランドオープン。
2005 年 個人会員組織を「支所」から「家庭倫理の会」に改称。
「朝の集い」を「おはよう倫理塾」に改称。
2006 年 第1回しきなみ子供短歌コンクール表彰式開催。
創始者生家（復元）竣工。
2007 年 倫理法人会5万社達成記念大会開催。
2009 年 「地球倫理の森」創成10周年記念大会開催。丸山
竹秋没後10年記念大会を開催。
2010 年 日中実践倫理学討論会2010開催。
2011 年 富士教育センターオープン45周年記念式典開催。
グランドデザイン完成。
2012 年 創始者生誕120年記念式典開催。
2013 年 一般社団法人へ移行。
2014 年 「地球倫理の森」創成15周年記念式典開催。
長年の沙漠緑化活動が「第6回中国環境発展要人
フォーラム」で表彰される。
2015 年 「地球倫理の森ウランブハ」創成事業スタート。創立
70周年記念全国青年弁論大会開催。
2016 年 倫理法人会全国代表者大会開催。台湾に亜細亜台
湾企業倫理促進会設立。本部移転。南カリフォルニ
ア倫理法人会設立。富士教育センター開設50周年
記念式典開催。
2017 年 オレンジカウンティ倫理法人会設立。
サンパウロ倫理法人会設立。
2018 年 カリフォルニア州倫理法人会設立。
2019 年 全国青年フォーラム2019開催。「地球倫理の森」創
成20周年記念式典開催。カンピーナス倫理法人会
設立。
2020 年 創始75周年記念事業として建設を進めていた紀尾井
清堂が竣工。
2022 年 紀尾井清堂にて「奇跡の一本松の根」展開催。

倫理会館

岐阜倫理会館
〒501-0234 岐阜県瑞穂市牛牧 1496-1

大阪倫理会館
〒534-0025 大阪府大阪市都島区片町 1-7-20

加古川倫理会館
〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 642-1

広島倫理会館
〒733-0012 広島県広島市西区中広町 3-24-16

大牟田倫理会館
〒836-0006 福岡県大牟田市大黒町 1-29-1

京都倫理会館
〒605-0907 京都府京都市東山区川端五条下ル西橋町 470

神戸倫理会館
〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町 4-14-16

龍野倫理会館
〒679-4167 兵庫県たつの市龍野町富永 410-1

北九州倫理会館
〒802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借 2-7-28

鹿児島倫理会館
〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 21-2

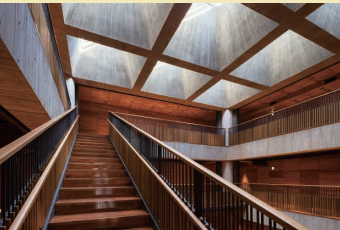
主要施設



倫理研究所（本部）
倫理運動推進の本部として、研究・普及・教育・企画・出版・広報
などの各種業務を行なっています。
〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町 4-5



紀尾井清堂
倫理運動創始75周年を記念して令和2年に竣工。本部の真向
かいに位置し、展示室やホールを備えています。
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-1



富士高原研修所
純粋倫理の理論的・実践的学習の場として、小学生から成人を
対象にした各種セミナーを行なっています。敷地内には他に、富
士倫理学苑・富士万葉植物園・丸山敏雄記念館があります。
〒412-0008 静岡県御殿場市印野 1383-9



倫理資料館
創始者の遺品・遺墨、倫理・道徳に関する専門図書のほか、倫
理運動史料や記録などの蒐集・保存整理を行なっています。
〒180-0022 東京都武蔵野市境 5-6-25

天和会館
倫理運動の創始者・丸山敏雄の生家（2006年復元）に隣接した
会館。主に倫理研究所の研修施設として活用されています。
〒828-0081 福岡県豊前市大字天和 392-1





一般社団法人 倫理研究所

〒102-8561 東京都千代田区紀尾井町4-5 TEL 03-3264-2251

ホームページ <https://www.rinri-jpn.or.jp>

発行：一般社団法人倫理研究所 編集：倫理研究所総務部 発行日：2022.12.20